

ずっと続けてきた 苦しい時こそ続け 夢を大きく持って諦

平成29年11月26日(日), 作新学院大学を会場として「第10回うつのみや人づくりフォーラム」が開催されました。フォーラムでは、「育もう 地域の愛で 子どもの未来」をテーマとして、大人が子どもの手本となり、みんなで人間力を高めるために、学校教育への支援活動などにより子どもの育成に貢献していただいた方(教育支援者)に対する感謝状贈呈式や、地域の活動団体によるパネル展示などを行う「地域教育メッセ」を開催しました。その中で、宇都宮市出身のサッカー選手、安藤梢さんから、夢を抱いてやりぬくことの大切さについてメッセージをいただきましたので、紹介します。



宇都宮市教育委員会の人づくり

宇都宮市が進めている、「社会総ぐるみによる人づくり」では、自分の夢や目標を抱いてやりぬく心を持つことが大切だと考えています。

宇都宮出身の女子サッカー選手安藤梢さんに、夢を抱いてやりぬいたエピソードや、困難を乗り越えた時の行動について話を聞きました。

目標をもう一度再確認して、自分に向き合うことで困難を乗り越えた

—今まで、一番、困難だと感じた時、どのようにして乗り越えたのですか。

日本女子代表から落選してしまったときが一番苦しくて、サッカーが大好きでずっとやっていたんですけど、その時はサッカーをするのが苦しいなっていうときがありました。

でも、やっぱりもう一度「自分の夢は何か」っていうのを自分自身に問いかけて、自分はワールドカップにも出たい、オリンピックにも出たい、日本女子代表選手に

なってプレイしたいっていう目標があることを、もう一度再確認して、うまくいかない時に自分がダメなところをしっかりと認めて、うまくいかなかったところ、どこがダメだったかを考え、向き合いました。

「次の一秒を取りにいこう」

—自分を励ますための言葉を教えてください。

ずっとサッカーをやっていて、「次の1秒を取りにいこう」という言葉をいつも胸に持ってプレイしています。

二十歳の頃に出会ったコーチから言われた言葉で、サッカーはミスがあるスポーツだから、試合中や練習